

## プロローグ

「ひとつ、ふたつ、みつつ」

幼い指が川面をさす。

「あ、あそこにもいるね、よつつだ」

声が弾んでいる。若い母親は、娘の小さな頭に手をのせてほほえんだ。

「かおりちゃん、あっちのは、ちよつと潜つてまた出てきたのよ。だから全部で三羽だね」

「さんば？」

「そうよ。鳥さんは一羽、二羽、三羽つて数えるの」

子供が数えているのは、きらめく水面に浮いては消える、川鶺の数だった。長い首を器用に操り、少し心配になるほど長いこと水に潜つては、思いがけなく離れた場所にぼつかりと浮かび上がる。

「トリさんもおひるごはん？」

「そうかもしれないね」

潜つては現われる川鶺たちは、魚をくわえているときもあれば、そうでないときもある。

「あっちのは、もぐつて出てきたのにおサカナたべてないよ」

「じゃ、空振りだったんだ」

「カラブリさんだ。あ、こんどはあっちへいったよ！」

小さな足の裏を見せて、子供が駆け出していく。

「川のそばに寄っちゃいけませんよ！」と、声をかけて、母親も同じ方向へゆつくりと歩きだした。

好天の日曜日、十一月にしては少し暖かすぎるほどの陽射しが、河川敷にも川面にも降り注いでいる。コンクリートで固められた護岸に沿って歩きながら、母親はまぶしさに目を細めた。

(こんなに気持ちがいいなら、毎日散歩にきたっていいわね)

目をあげれば 対岸にはマンションが立ち並び、上手の方向に見える葛西橋の上では、渋滞で停まっている車のボディに、陽光が照り返している。振り向けば、今しがた子供と手をつないで降りてきた急な土手がそびえ、その上を自転車が一台、のんびりと走り抜けていくところだ。

「おかーさん」

子供の声がある。母親よりも十メートルほど下手の、川がゆつくりと蛇行している場所にて、護岸ぎりぎりのところに立ち、膝に手をあてて流れをのぞきこんでいる。母親はあわてて

駆け寄った。

「そんなとこにいちや駄目よ、危ないから」

子供は小さな手をのぼし、すぐ足元を指差した。

「あんなとこにタイヤがあるよ」

のぞいてみると、確かに、そこに古タイヤが一つ沈んでいる。水は決して澄んではないが、水深の浅い場所なのではつきりと見ることができる。

「ホントね。誰が捨てたのかしら」

「イケナイんだよね。川にすてたらいけないでしょ」

「そうねえ」

見守るうちに、上流から白いビニール袋のようなものが流れてきて、古タイヤにひっかかった。袋の口はほどけており、水のなかでひらひらしている。

（思ったよりずっと、流れが速いんだわ）

母親は子供の手を握りしめた。

そのとき、川の流れが袋を持ち去り、中身だけが残された。

そこに現れたものは、若い母親の頭に、とっさに子供のお気にいりの人形を連想させた。

扱いが乱暴なので片手がとれてしまい、修理をしてやったばかりだ。もつと大事にしてあげなくちゃ、お人形さん、可哀相じゃない……。

それほどに、そのものは人形の手によく似ていた。手のひらを下に、指がこちらを向いている。川の流れに、かすかに上下する。差し招くように。その爪の間に泥がついている。

マネキンだわ、きつと。若い母親は考えた。心臓がどきどきし始めていた。よくできたマネキンよ。

「おかあさん……。」

子供が見上げる。だが、動揺した母親の視線は、そのときまた別のものに吸い寄せられている。

もうひとつ、上手から流れてくる。同じようなビニール袋だ。スーパーでくれる、ありふれた白い袋。そのふくらみ、その丸み。やはり見慣れたものを思い出させる。

半切りのキャベツ。半切りの西瓜。それが白いビニールにくるまれて流れてくる。子供がお風呂に浮かべて遊ぶ玩具のヨットのよう。

流れのままに、それはゆつくりと半周し、解けかかっている結び目の部分をこちらに見せて、漂ってゆく。そこから何がはみ出している。

母親はそれに目を据えていた。あれは——あれは——たぶん——

すぐそばに、鵜が浮かび上がり、長い喉を震わせて魚を飲み込んだ。

それで呪縛が解けた。母親は子供をひつさううようにして抱きあげると、回れ右をして駆け出した。

ビニール袋からはみ出していたのは、人間の頭髪だった。

「おかあさん、どうしたの？」

子供の声にも応えられず、母親は駆けた。土手の方向に向かい、人影を求め、あえぐようにして叫びながら。

彼女の背後では、ビニール袋から流れだしたものが、声のない口を開き、流れに歯をすすがせながら、うつろな眼窩で青い空を見上げていた。

この続きは、書籍でお楽しみください。

◎注意

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および有償無償に拘らず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。

個人利用の目的以外での複製等の違法行為、もしくは第三者へ譲渡をしますと著作権法、その他関連法によって処罰されます。